

実感に根ざした教育をめざして

—— 父母・教師・児童が一体となって進めた生命尊重の授業(道徳) ——

足利市立毛野南小学校 家 住 伸 司

I 基本的な考え方(毛野南小学校教育計画をうけて)

- (1) 父母を対象とした公開授業は、学校教育をより正しく理解していただく手段の一つである。本校としては、4月の総会時そして、7月・12月・2月と、毎学期1回の計4回を原則として授業公開日として設定する。
- (2) 毎年2学期の公開授業の教科は、隔年で道徳・同和教育を展開し、学校で行う道徳教育や同和教育についての見識を深めるとともに、家庭における道徳教育や正しい同和教育への啓蒙の機会とする。

※一部抜粋

II 三者一体の授業と生命尊重をとりいれた意図

過日、北中学校において文部省指定研究「道徳的実践力のある生徒の育成」の発表を見る機会を得た。各学年3クラスの公開授業があり、その中から私は迷うことなく1年5組、松崎恵子教諭の授業を参観させていただくことにした。

その理由はいたって単純ではあるが、

- ① 主題名が「命の尊さ」であること。
- ② 長い間、高学年担当であり中学生とはいえ、その思考段階に余り大きな隔たりがなく見られそうであること。
- ③ 松崎恵子教諭とは、西小学校で一緒に勤務したこと。

等があげられる。授業は予期したとおり、北中学校の総力を結集し研究し尽くされた味わい深い内容であった。生徒と教師のやりとりを聞きながら、急に3年前の「教え子の自殺」という忌まわしい思いが脳裏をかすめ、後半の授業はまるで夢遊病者のようだった。教え子とはいっても部活という間接的なつきあいではあったが……。

「もし、小学校でこれだけの授業にあえたら……。」

「もし、仲間と一緒に 命 を語り合う機会を恵まれていたら……。」

「もし、母の無償の愛に気づいていたら……。」

「もし、生命は自分一人のものではないと考えられたら……。」

そう思うと、改めて1時間の授業の重みを痛感せずにはいらなかった。

このことがきっかけとなり、授業参観には生命尊重を取り上げることにした。授業参観と言っても、旧態依然とした「参観だけの参加」だけではなく、意見や考えを授業の中で発表してもらい、ともに考える場を設定しようと考えた。

それは、次のような考えからである。

- ① 普段家庭教育の中で、ことあるごとに「生命の大切さ」について、話さなくてはならな

いことだが、子供に対する親の情愛などをおり混ぜ、膝を交え話し合ったり、ともに考えたりすることは、思きせがましいのではないのかという「照れ」が先走り、ついありきたりの一方的な話で深まりがない。

- ② 親と教師と児童が一体化して、心が通じ合う時間として道徳教育がふさわしい。その中でも「生命尊重」に関しては、万人に異論のあるはずがない。

Ⅲ 授業展開までの計画と手順

(1) 指導案の作成

- ① 特に、親の参加場面の決定と、内容の選定。

(2) 児童の意識調査

- ① 一番大切なものは何か。
② 死んでしまいたいと思ったことがあるか。それは、どんなときか？
③ 自殺することについて。

(3) 父母の「我が子に対する意識調査」

- ① 我が子が生まれて、初めて胸に抱いたときの気持ち。
② 我が子の命が、危機にさらされたときの思い。

Ⅳ 児童の意識調査とその結果

(1) 児童の意識調査の形式と内容

| |
|---------------------------------------|
| 1 貴方にとって、一番大切なものは何ですか。 |
| ----- ----- |
| 2 貴方は、今までに死にたいと思ったことがありましたか？ |
| (1) ある |
| (2) ない |
| (1)と答えた人に聞きます。それはどんなときですか。詳しく書いてください。 |
| ----- ----- |
| 3 自殺することは許されますか。 |
| (1) 絶対にいけない。 |
| (2) 理由によっては仕方がない。 |
| その理由を聞かせてください。 |
| ----- ----- |

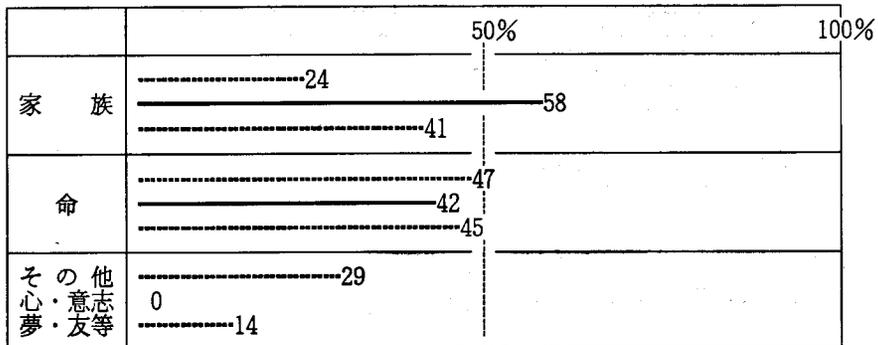
(2) 児童の生命に関する意識調査の結果

◎ 今までに何らかの理由によって、死にたいと考えたことがあると答えた児童が、50%弱もいたことには大きな驚きを感じざるを得なかった。そればかりか、その原因のほとんどが家族関係の中で生じた問題である。学習のこと、通塾のこと、兄弟関係のことがほとんどを占めている。次に続くのが、苦しさ・辛さからの逃避、そして自己嫌悪という順列であった。

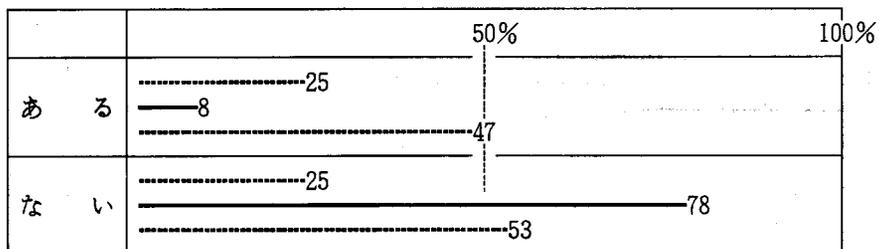
※ グラフの見方

上から ----- 6の1 35名
 ———— 6の2 36名
 - - - - - 学年全体 71名

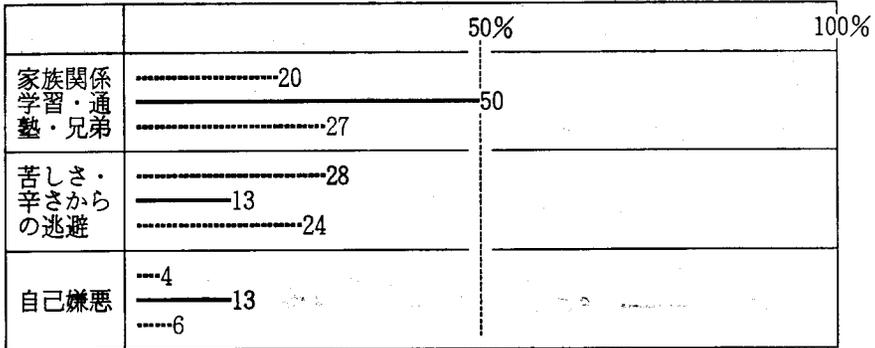
1 あなたにとって、一番大切なものは何ですか。



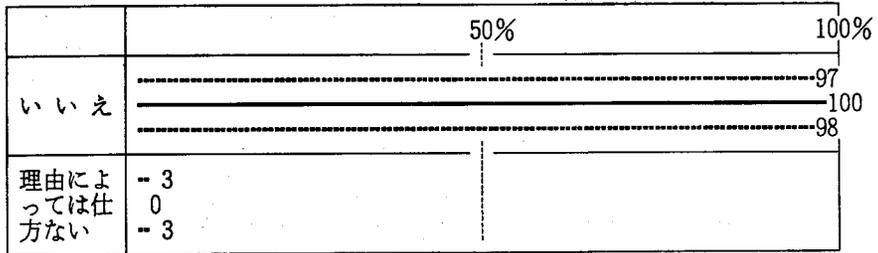
2 あなたは、今までに死にたいと思ったことがありましたか。



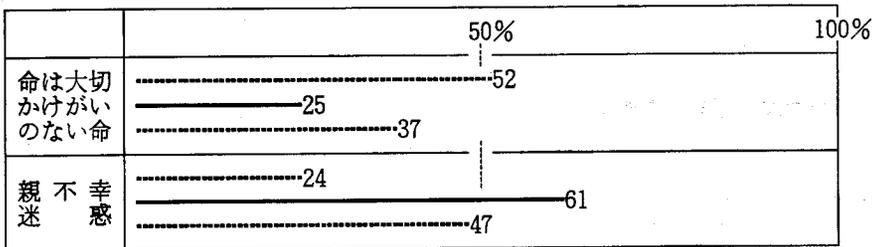
あると答えた人に聞きます。それはどんな理由からですか。



3 自殺することは許されますか。



なぜ、許されないのですか。



と思っていましたが、今ではそれが当り前になり少しずつ気持ちの上で変わってる自分に気がつき
ます。でも色々考えますと変化するからこそ子育てができるのかもしれない……親離れする
時期がくるまで（もうきているのかもしれませんが）子供に必要とされている今をもっと大切に
しなければと思いました。

父母氏名 (M. M.)

何とも言えない感動でした。大人になるまでは夫婦でしっかり育てなくてはと思いました。

父母氏名 (K. O.)

生まれて2日目に、新生児室で寝ているわが子をガラス越しに見ました。長い指を伸ばして、
パンザイをしている姿を見て、とても元気の良い子だと思い、うれしさと、安心した気持ちで
した。それから数時間後に、わが子を抱きました。小さくてやわらかく抱いているのが怖いよう
で思わずきつく抱いてしまいました。そして、これから先のことを考えていたら胸がいっぱい
になってしまいました。

父母氏名 (S. S.)

小さな小さな口で無心にお乳を吸っているわが子を抱いていると、心の奥深く、暖かいもの
に体が、つつまれているような幸せを感じ、今までに味わった事のない充実した、満たされた
気持ちになった事をおぼえています。子供は、なにものにも変えがたい、本当に可愛い宝物です。

父母氏名 (T. S.)

とても小さくて、こわれそうで、かわいくて、かるいのに入ってしまった、私をまっていた
ように目をあけて、私がお母さんというのが、わかったかのように見つめられた時は、今でも
はっきり思い出しますが、とても感激しました。1日じゅうだっこして顔を見ていたいほどか
わいくてうれしかったのをおぼえています。

父母氏名 (K. K.)

2 我が子の命が危機にさらされたとき（育ててきて病気やけがをしたとき）どんな気持ちがし たでしょうか。

とにかく我が身とかわってあげたい。そして少しでも早く苦痛を取り除いてあげたいと思いま
した。今は割合丈夫になりましたが、毎月よく病院のお世話になりました。

一度、病気の後、一日中乳を飲まず、寝たきり起きなかった時など、生きた心地もせず、つ
きっきりでした。ようやく水を口にした時は涙が止まらなかった事を記憶しています。

父母氏名 (M. I.)

幼児期、病弱だったので、入退院を繰り返す事になってしまった。病室から抱っこして廊下へ、そして検査室へ、その時看護婦さんに渡すものすごい泣き声に変わり、そのままドアが閉まる。部屋の中から聞こえてくる泣き声は、確実にいつもとは違っている。もちろんいじめられているわけではないが、先生や看護婦さんを恨んだ事もあった。何もしてあげられない私としては、一歩でも近くにいたくて、ドアにはりついていた。

父母氏名 (K. S.)

出来ることなら、変わってあげたい。この気持ちで胸が一杯になります。つい最近、生体肝移植をうけた一才の子供さんと我子を置替えれば、涙を流さずにはいられない。こんな気持ちで胸が詰まる思いです。

父母氏名 (K. Y.)

かぜをひいて熱がなかなかさがらない時、車のドアに手の指をはさんでしまった時、嘔吐して点滴をされると言われ、なかなか入らないで、たまらない気持ちになった時、ぎんなんにかぶれて、顔つきまで変わってしまった時……。いろいろありましたが、神様にお祈りするような気持ちで、その時々を夢中でいろいろしたように思います。子供の苦しみは、親にとっては気が狂うような辛い事です。

父母氏名 (Y. I.)

3才6ヶ月の時、軽い肺炎にかかり、1週間入院をした。その時、検査と点滴などで泣いていた子供の声が忘れられない。代われるものならかわってやりたいと思い、涙が出た。

父母氏名 (K. I.)

乳母車から落ちて頭にキズができて、血がたくさん出るので、急いでお医者さんに見てもらい、早く手当てをしました。痛い思いをさせて「ごめんなさい」という気持ちと軽いケガですんでよかったと思う気持ちでいっぱいでした。

又、たびたびの発熱でぐったりした時などは、愛情をそそぎ、早く快復する様願いました。

父母氏名 (T. I.)

VI 三者一体(父母・教師・児童)となった道徳科の学習の実践(授業記録)

平成元年12月7日(木) 第5校時

6年2組 男19名 女17名 計36名

指導者 家住伸司

1 主題名 生命の尊重(Ⅲ-2)

2 資料名 絶望の果てに(NHK 特集ビデオ「愛 深き淵より」の日記)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする指導内容について

Ⅲ-2は「生命がかけがえのないものであることをしり、自他の生命を尊重する」ことをねらいとしている。小学6年生という時期は、性徴期の初期にあたり、男女とも心身がアンバランスであり、気分的にも不安定で喜怒哀楽の激しい時期でもある。従って、その日の気分の赴くまま、友人に誘われるままに行動をおこし、自分の考えや価値観と違うものを排除したり、稀には、掛け替えのない生命を傷つけたりすることもある。

また、現代社会は甘やかしの社会と言っても過言ではないほど、生きるための試練の場や機会が少ないために、子供はひ弱に育ちざるを得ないことも事実である。

障害を持つ子の親は「健常児だったら」といい、事故で子供を亡くした親が「生きてさえいてくれたら」というように、失って初めて失ったものの価値に気づくが、無事に生きている間は、生命の有り難さ、素晴らしさに気づくことが少ない。

しかし、生命とは、此の世にたった1つしかないものであり、しかも再び繰り返すことのできない1回限りのものである。そこで、星野富弘さんの日記を通して、人間は他の人々に支えられて生きていること、自分の命は自分だけのものではないということに気づかせ、生命を尊重する態度を養わせたいと考え本主題を設定した。

(2) ねらいとする指導内容にかかわる児童の実態について

前ページ、4 児童の意識調査とその結果を参照

4 資料について

(1) あらすじ

資料は、星野富弘著「愛 深き淵より」の一部、1973年11月の日記である。事故により首から下が全く動かなくなってしまった筆者は、何年も病院のベットに仰向けに寝たまゝの生活である。三度の食事は母に口にいられてもらうのだが、ある日のこと、母の手元が震えて、スプーンの汁を筆者の顔にこぼしたのをきっかけに、いままでつもっていたいらいらを母にぶつける。だが、筆者の顔にハエが止まると、それでも母はやさしい手で筆者の顔を押しさえるのである。その日から、筆者は再び筆を取り、画を描き始めたのである。

(2) 読み取りの視点

体育教師だった筆者が、けがをして身体が思うように動かなくなり、苦しみのどん底で投げやりになり、生きる意志を失いつつある姿と、母親の愛によって再び前向きに生きようとし始めた筆者の気持ちの変化を読み取らせ、命の尊さと自分の命を支えてくれる人がいるこ

とに気づかせたい。

5 本時のねらい

生命は、自分一人のものではないことに気づかせ、一日一日を大切に生きていこうとする心情を養う。

6 展開（授業記録）

7 評 価

自分の命は自分だけのものではないことに気づき、一日一日を大切に生きていこうとする心情が養えたか。

8 板書計画

『絶望の果てに』

星野友弘さんの記録

「うるせえ……チキシヨウ」とは、どんな気持ちで言ったのか

- ・ 死んでしまったほうが母に迷惑を掛けない
- ・ こんな状態で生きていても仕方がない
- ・ 投げやり
- ・ いらいらしいてるあらわれ

しばらく止めていた絵を描き始めたのはどんな気持ちからか

- ・ 母に申し訳ない
- ・ 母の尽くす姿に対し恥ずかしい
- ・ 自分の限界を知りたい
- ・ 母のためにも生き抜かなければ

今まで、自分の命をどのように感じてきたか

9 資 料

VTR

読み物資料

アンケート（児童・父母対象）

学習プリント

フラッシュカード

星野富弘 詩画集カレンダー

星野富弘著の本

絵

10 「絶望の果てに」学習プリント

6年 組 番 氏名 ()

星野富弘さん

星野さんが、また絵を描き始めたのはどんな気持ちからだろうか。

.....

.....

.....

自 分

今まで、自分の命をどのように感じてきましたか。

.....

.....

.....

11 読み物資料

「絶望の果てに」

1973年11月

手が動かないので食事は三度三度母に口にいらしてもらっていた。仰向けに寝たままだから、汁は大きなスプーンで口に流し込んでもらった。体を動かすことがないと、病院の食事時間が朝8時、昼12時、よる5時と間隔が比較的短いため、ほとんど腹が減らなかった。腹の減らない時の食事は、口のそばにもってこられるから仕方なく口を開くようなもので、苦痛ですらあった。そんなとき、少しでも顔にこぼされたりすると、それを口実に食べるのをやめてしまった。

やはり食べたくない食事のときのことだった。母の手元が震えてスプーンの汁を私の顔にこぼしてしまった。わずかなことだけれど、カッとなくなってしまい、そのとたん積もり積もっていたイライラがいきなり爆発してしまった。爆発と言っても、どうしようもないほどにふくれあがったいらだちを、投げ付ける相手は母しかいない。

私は口の中の御飯粒を母の顔に向けて吐き出して怒鳴った。

「チキショウ。もう食わねえ。くそばばあ」

散らかった御飯粒を拾い集めながら、母は泣いていた。

「こんなに一生懸命やっているのに、くそばばあなんて言われるんだから……」

「うるせえ。俺なんかどうなったっていいんだ。産んでくれなきゃ良かったんだ、チキショウ。」

母は涙をふきながら、自分の食事に出て行き、しばらく帰ってこなかった。

一度開いてしまったイライラの出口は、用意に閉じることができず、母がやっと帰ってきて、トゲのある言葉で母にあたった。母もよほど悔しかったのかしばらく口をきかなかった。ハエがうるさく顔の上を飛び回っていた。まるで私の手が動かないのを知っているかのように、いくら顔を振っても離れてはすぐに私の顔にたかった。黙りこくっていた母が、とうとうたまりかねてハエ叩きを握った。足のへんで叩く音がして一匹取ったようだったが、少しすると、また別のハエが現れて、私の顔に止まった。母がハエ叩きを握って叩こうとしたが、気を取り直してハエ叩きを左の手に持ち替えて、右手で私の顔のハエを叩く構えをした。そして母の手は叩くというよりもそっと触れるように私の顔を押さえた。もちろんハエはにげてしまったが、ハエの止まっていた頬に母のしめった手のぬくもりが残った。ザラついていたけれど、柔らかな母の手だった。母の感触は、私の頬からいつしか身体中に広がっていった。

あれほどの言葉を浴びせた私を母はきっと憎んだに違いない。しかしその憎しみの中でも、母は私の顔につきまとうハエを見過ごしてははられなかったばかりか、ハエ叩きで私の顔を叩くこともできなかった。母の顔に御飯粒を吐きかけた私の、顔のハエを母は手でそっと捕まえようとした。

私は思った。これが母なんだと。私を産んでくれた、たった一人の母なんだと思った。

この母なくして、私は生きられないのだ――。

その日から私はしばらく止めていた絵を描き始めた。母が左手にハエ叩きを握り、右手を振り上げて私の顔に止まっているハエを取ろうとしている絵だった。

6 展 開

| 過 程 | | 学 習 喚 起 要 因 | 学 習 の 流 れ | 時 間 |
|--------|--------|---|--|-----|
| 導 入 | 資 料 | <p>喚起要素①</p> <p>○ 作品の素晴らしさにふれさせどんな人が描いたのかという関心を高め、ビデオへの導入を図り、重度障害のため筆を口にくわえて描いた絵である事への驚きから、もっと詳しく知りたいという学習意欲を喚起したい。</p> | <p>1 絵を見て話し合う</p> <p>2 ビデオを見て星野富弘さんについて知る</p> | 10 |
| 展 開 | 資 料 | <p>喚起要素②</p> <p>○ 語句やその意味の抵抗を少なくすることにより、「気持ちを考える」学習に誰もが参加できるよう範読とし、意欲喚起としたい。</p> | <p>3 資料を読む</p> <p>4 星野さんの気持ちを考え話し合う</p> <p>5 星野さんの気持ちを考え話し合う</p> <p>6 今までの自分を振り返り、作業用紙に考えを書く</p> | 15 |
| | | <p>喚起要素② ④</p> <p>○ 自分の考えを発表しやすいよう、時間をとって作業用紙に簡単にまとめさせるとともに、机間巡視の中で発表依頼もする。</p> | | 10 |

| 主 な 発 問 | 予想される児童の反応 | 指 導 上 の 留 意 点 |
|--|--|--|
| | | <p>○ VTR・絵を見比べながら、星野さんの生い立ちや現在の姿について、十分に説明を加え資料への興味を高めたい。</p> |
| <div data-bbox="164 952 435 1103" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>うるせえ。俺なんかどうなったっていいんだ……チキショウ……。</p> </div> <p>かなりたてる星野さんはどんな気持ちでいたのだろうか。</p> <div data-bbox="164 1244 435 1472" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>そんな自暴自棄になっていた星野さんが、なぜ絵を描こうなんて気持ちになったのだろうか。</p> </div> <div data-bbox="164 1493 435 1669" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>今まで自分の命をどのように感じていたか。作業用紙に考えを書こう。</p> </div> | <p>○ こんな身体では、生きていてもしょうがない。</p> <p>○ 動けなくてつらい。</p> <p>○ いらいらしている。</p> <p>○ 生きることに投げやり</p> <p>○ 変わらぬ母の、子に対する思い。</p> <p>○ 母のやさしさに打たれた。</p> <p>○ 母を見て、生きなければ申し訳ない。</p> | <p>○ 筆者の気持ちが伝わるよう、心情を込めて朗読する。</p> <p>◎ 強化する場面は、「つぶやき」を入れながら、その時の気持ちを考えていく上での布石とする。</p> <p>○ 「気持ちの伝わる文」「もう少し、深く読んでみたい文」にはサイドラインを引きながら聞くようにさせる。</p> <p>○ 絶望のどん底でやけになっている星野さんの気持ちに、より強く共感させ、「母の無償の愛」の素晴らしさに気づかせるとともに、その深さに感銘させるための布石としたい。</p> <p>○ 母の「無償の愛」にふれて、再び生きようと立ち上がる星野さんの気持ちを感じ取らせたい。</p> <p>○ 苦しいこと、辛いことから、ややもすると簡単に死にたいと思ったり、命は自分だけのものだと思っていた自分に気づかせたい。</p> |

| | | | | |
|---|---|---|---|----|
| | | <p>援助指導</p> <p>○ 怒鳴られた母の気持ちや、ハエ叩きを使わず顔のハエを追ってくれた母の気持ちに焦点をあて、そのことに対する星野さんの思いを考えさせる。</p> | <p>C</p> <p>7 発表し話し合う</p> <p>選択的指導</p> | |
| 終 | 生 | <p>喚起要素⑤</p> <p>○ 星野さんの母の思いも、自分を取り巻く両親・家族・友人の思いも全く変わらぬことに気づかせ、「命は自分だけのものではない」ことを確認させ価値の継続化を図る。</p> | <p>8 我が子が生まれたとき、命が危機にさらされたときの父母の思いを聞く</p> <p>9 教師の話聞く</p> | 10 |
| 末 | 活 | | | |

| | | |
|--|--|---|
| | | |
| <div data-bbox="146 581 415 788" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>みんなの父母が子供に 対して、どんな気持ち で産み、育てているの か聞かせてもらおう。</p> </div> | | <p>○ 父母の事前の意識調査を網羅したプリントを児童に配り、事前においてお願いしてある父母に心情をこめて朗読してもらおう。 (各項目について5名程度)</p> <p>○ 命は自分一人のものではないこと、かけがいのないものであるから中学生に向けて、苦しく辛いことも多くなるが、そのような時は体験の多い父母や信頼できる先輩に相談しながら、解決していくように勤める。</p> |

◎ 同和教育上の配慮事項

① 授業記録

| 教師のはたらきかけ | 児童の反応 |
|--|---|
| <p>(資料「絶望の果てに」を範読)</p> <p>○ 「うるせえ。俺なんかどうなったっていいんだ。……チキショウ……。」 がなりたてる星野さんは、じんな気持ちでいたのだろうか？</p> | <p>(範読中, 2・3名のすすり泣き)</p> <p>○ 生きていてもしょうがない。 ○ もう, こんな生活嫌だ。 ○ ヤケになってしまっている。 ○ こんな身体になってしまった自分を, どうしていいのかわからない。 ○ 産んでくれた母に申し訳ない。 ○ 言ってはいけないことだと知りながらも辛く悲しい気持ちのやり場がなく, 母にあたってしまった。 ○ こんな自分になってしまって, 母に迷惑を掛けて終っている自分が腹立たしい。</p> |
| <p>○ そうだよな。体育教師になるほどスポーツマンだった自分が, 身動きどころか首から上だけしか動かなくなってしまったのだから, 「もう, どうにでもなれ。」とヤケになっても仕方のないことだよな……………。</p> <p>(児童の反応をうかがう)</p> <p>○ でもさあ, もう, ヤケになって「俺なんかどうにでもなれ」と思っていた星野さんがなぜ, どんな気持ちから, しばらく止めていた絵を描く気になったんだろうね。</p> | <p>(ほとんどの児童が首をうなだれて無言のまま, 数秒が過ぎる)</p> <p>(重苦しい空気が教室に流れ, 声を立てて泣き出す子もあらわれる)</p> <p>○ 絵を描く楽しさが忘れられないのでは。 ○ このままでは, 母に申し訳ない。 ○ こんな自分でも, できる事をやってみよう。 ○ こんな身体になって, 母にあたっている自分なのに, がなられても一生懸命に尽くしてくれる母に申し訳ない。 (半数くらいの子が目を赤くして, 意見の言える状態ではない。)</p> |

| | |
|--|--|
| <p>(泣くことは、ちっとも恥ずかしいことではないよ。落ち着いたら、また発表してね。)</p> | <p>○ すねている自分の身体は元には戻らない。自分の限界まで挑戦してみよう。</p> <p>○ 自分だけの身体ではない。俺には、母がついていてくれる。できることで恩返しをしたい。</p> <p>(後ろで参観している父母も、すすり泣きが始まる。)</p> |
| <p>○ そうか。ヤケになっている自分に対する母の思いが星野さんの償いの気持ちや、「俺だけの命ではない。こんなにしてまでも俺のことを心配してくれる母がいるんだ。負けてたまるか。」という気持ちにさせたんだね。</p> <p>……………間をおいて……………</p> <p>○ ところで、星野さんは、健康でいたときは考えても見なかったであろう「命の大切さ」を、身体が動かなくなってつくづくおもいらされたんだけど、みんなは今まで、自分の命をどう感じていたのか、作業用紙に書いてみてくれる。</p> | <p>(ほとんどの子が首をうなだれ、顔を上げずに、ただうなづくだけ。)</p> <p>※ 子供の発表は別紙に</p> |
| <p>○ その通りだよ。今まで自分の命は自分だけのものと考えていたようだが、それはとんでもない間違いで、自分の周りには自分を心配して見守ってくれている父母をはじめ、たくさんの人々がいるんだよね。だから、せっかく親からもらった命を自分から捨てる自殺なんて許されることではないんだよ。</p> <p>……………間……………</p> <p>○ みんなのお父さんやお母さんが、どんな思いで我が子を生み、我が子を育てているのか聞いてみようね。</p> <p>……………教師の話は略……………</p> | <p>(指名で父母に朗読をしてもらう。)</p> <p>○ 最初の2～3名の方は、スムーズに読んでくれたが、その後の朗読は父母のすすり泣きや、子供の泣き声に、声を詰まらせたり、途中で読めなくなってしまった。子供たちも、目を真っ赤にして聞いている様子を見て、これ以上は残酷と思いやめた。</p> |

| |
|--|
| ③ 実験や実習したりして体を動かす学習のとき |
| ④ 好きな友だちや同じ意見を持つ友だちと、グループで学習できるとき 意見や考えをはめられたとき (下学年) |
| ⑤ 疑問や問題点が解決できたとき |

| | |
|--------------------------------|--|
| <p>3. まとめる (収束・まとめの段階)</p> | <p>○援助(補助)指導の位置付け</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習不成立の場合 (つまづきの原因と対応) ○活動の遅い子どもへの対応 (つまづきの原因と対応) ○活動がはやく終わる子どもへの対応 (活動の見直しと整理から、見つけたことや疑問点などをもとにまとめをさせたり、(新たな追求したい課題を考えさせたり、活動を深化・発展させる内容を見つけてさせる。) <p>※対象 1. 全体 2. 小集団 3. 個人</p> |
| | <p>○結果・わかったこと・感想等を表現する場の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ○話し合い ○記録(作文・絵・手紙) ○身体表現(低学年) <p>※個と集団とのかわりを大切に、認め励まし賞揚したい。</p> <p>○次時の追求課題を示唆・提示する場の設定 (更に発見しなくなったり、追求しなくなるような意欲が高まる示唆・提示)</p> |

| | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○学習で使用する基本的な器具の名称や正しい扱い方ができるようにさせる。 ○実験や観察のめあてをしつかりつかませ、解決するための方法を考えさせる。 ○実験や観察の基本を覚えさせる。 <p>高学年</p> <p>◎追求の視点を明確にし、必要条件を整えて調べさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習で使用する器具を正確に操作させる。 ○実験・観察の目的に応じて器具を選択・工夫して使用させる。 ○実験・観察の視点を明確にし、よりよい方法を考え調べさせる。 ○多様な発想を生かし活動させる。 | <p>低学年</p> <p>◎くり返し活動させながら、さまじりを見つけてさせるようにする。</p> <p>◎見つけたことを適切なことばや身体表現で伝えられるようにさせる。</p> <p>中学年</p> <p>◎実験や観察の結果から分かったことや感想等を簡潔に自分の言葉でまとめられることができるようにさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○必要に応じて、科学的用語を用いてまとめられるようにさせる。(含、図示) <p>◎友だちや他のグループの発表をもとに、自分の考えや意見を深めたり修正したりできるようにさせる。</p> <p>高学年</p> <p>◎実験や観察の結果をもとに、筋道を立てて分かったことや感想等をまとめられるようにさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○適切な科学的用語を用いてまとめられるようにさせる。(含、図示) <p>◎友だちや他のグループの発表をもとに、自分の考えや意見を深めたり修正したりできるようにさせる。</p> |
|--|---|

Ⅵ 『絶望の果てに』学習プリント

今まで、自分の命をどのように感じてきましたか。

氏名 (H. A.)

両親が今まで色々大変な思いをしてここまで育ててくれたのだから、ただ悲しかったり、いやな事があったから死んでしまおう、とか簡単に自殺をしてしまったら、自分は楽になるかもしれないけれど、まわりの人達にとってはとても悲しいことになる。それに生きてくても、生きられない人たちがいるのだから、生きられる人はつらい事があったぐらいでくじけないで、精一杯生きて、命を大切にしなければならないと思う。

氏名 (Y. T.)

生きてくても、生きられない人や星野さんのように体が不自由な人などの事を考えると、親から授かった大切な命。この一生をせいっぱい生きたい。それに、けっして自ら自殺などぜったいにしない。命というものは、自分だけではないのだ……という事も。

氏名 (M. Y.)

もし、自分の命をむだにして捨てたら産んでくれた母、それに一生懸命世話をしてくれた家族の人達が本当に悲しむと思う。育てられたり、お世話いただいた人達のためにも、自分にあたえられ一つの尊い命をつぶしてはいけないのだと思う。本当に「生きる」と言うことは、何よりもすばらしいと言うことが深く心にしみた。

氏名 (Y. O.)

ぼくの命は親からもらった大切な物だ。ぼくは、親に、ぼくをうんでくれてかんしゃしている。ぼくは、死にたいなんて思ったことは一度もない。じさつなんてしたら、親にもうしわけがない。かぜをひけば、かんびょうしてくれたり、いしゃにつれていってくれたりしてくれる。だから、自分の命は、自分だけのものではなく、みんなのものだと思う。

(1) 授業後に寄せられたご意見・ご感想

〃 〃

(回収率 93%)

1 本日の授業についてのご感想・ご意見・その他について

だいじな時期に命の尊さを子どもたちに、考えさせて下さった今日の授業は、いつまでも心の中にしまっておいてほしい。また、五体まんぞくな体を持って、親の愛情をそそがれ、いろいろな人に見守られている幸福を感じて、これからの人生いろいろな壁にぶつかったり、逆境に立った時、今日の星野富弘さんの事、命は自分だけのものではないという事を思い出してのりこえて行ってもらいたいと思いました。また子供ばかりでなく、親の私としてもあらためて生きるという事を考えさせられました。

いつもながら、先生の授業は心に残るものがありますが、特に今日の授業は、親子で心の勉強をさせてもらいました。ありがとうございました。

父母氏名 (K. K.)

とても印象に残る学習でした。山田君の涙もそうですが、言葉なんか知らない位、先生や皆の言おうとしている事が伝わってきました。菊地さんの言うように本当にいい時期に命の尊さを具体的に学習して戴き、ありがたいと思いました。

これから困難にぶつかった時、きっと今日のこの学習を思い出して、のり越えてくれると思います。

又、先生と子供と親が一体化して心が通じ合えた時間が持てたことをうれしく思いました。

父母氏名 (M.)

生きるという事について改めて考えさせられた道徳の授業でした。感情をおさえきれなくて涙を流す人もいました。私もその一人ですが……。

きっと、子供達も心に残る授業だったでしょう。

今度のテーマは、心では思っけていても文章で書いたり、子供と一緒に考えてたりする事は、ちょっとテレくさいテーマだったと思います。しかし先生がうまく引き入れてくれたおかげで、親は子供をいとおしく思い、子供は親に感謝する気持ちを再認識できたと思います。まだまだ幼いと思っていた我が子があつという間に六年生となり、心身共に成長したことに喜びを感じるこの頃です。中学校へいくといろいろな苦難にぶつかる事と思うので、こんな時今度の道徳の授業の事を思い出してたくましく育ってくれる事を願います。

父母氏名 (Y. T.)

道徳の授業を観せていただいた事は私にとって初めての事でしたので、とても楽しみにしておりました。授業のテーマと流れは前もってお知らせいただいておりますが、今の子供達に視点と考え方を教えられたような、そんな一時間でした。親の無償の愛や思いをこれまで追求し追求していく内に子供達も素晴らしい発表が聞けてこちらの目頭も熱くなり、心打たれた素晴らしい

授業でした。こんな授業をこの一クラスだけのものではなく、全校一同で体験できたら（せめて2クラス一緒に）よかったように思いました。

父母氏名 (M. I.)

先生、子供、親がひとつになったの授業参観、とてもなごやかな家庭での団欒のような部会。なによりも先生のあたたかい熱意のある授業に、改めて親子共々生命の尊さ、心のあたたかさを教えられた思いです。私を生んでくれた母親と子供に感謝したいと思います。

二人のおかげで昨日の授業参観がありました。先生、ありがとうございました。

犯罪の多い今日、道徳の時間とあって心にあつい物を感じました。子供に前日、星野さんについて知っている、又は本で読んだ事があると聞かれ家の者は無知でした。身体が不自由になって絶望のどん底に落ち、やけになるのは当然の事と思います。もし我が子が此の様な事になったら、どうしていたでしょう。夜子供と話し星野さんの実際を考えさせられました。子供は授業中に唯涙が出て何も言えなかったの、と言いました。私も同感でした。お母さんは子供の気持ちを痛い程分かり、其の優しさが子供の生きがいを再び盛りかえしたのだと思います。世界中のお母さんが此の様に子供の心が分かったら、又優しくかったらと思いました。

授業の中で涙していた子がいましたが、とても感受性が強く、すばらしい子だと思いました。私も前の学校から個展のパンフレットを見て、子供と一緒に見に行き、絵と文に感動しながら見たことを思い出し、つい涙ぐんでしまいました。

道徳の授業のことは、きっと皆の心の中に残っていくと思いました。

父母氏名 (A. N.)

「道徳」という事で、いつもと違った授業になるのでは……と期待しての通り、素晴らしい時間になったと思いました。ただ、残念な事に、4年生にも子どもがおりますので、どうしても半々に分けるようになってしまいます。「道徳」という授業ですと、できることなら最初から最後まで一緒になって考えていきたいものだと、つくづく感じました。

父母氏名 (K. S.)

星野富弘さんは、私も好きな方でしたので、感慨深く拝見しました。弟とかけもちでしたので、最初から最後までは、しっかり見られませんでした。1時間の授業の中での、子供たちの取りくみの深さには頭が下がりました。子供たちは、とってもいい受信器（うけとめる心）を持っていて、スゴイと改めて思いました。大人の私も、自分の受信器をいい状態にしておく努力を惜しんではいけないと反省させられます。

ひとつ(?)のことを越えた方たちの、大きさを感じました。私も、そして子供達にも、色々な波がこれからあるでしょう。その時、それをどう越えるか。そして、どう生きるか、そういう力を

つけ、つけていくことが、育つことであり生きてゆくことなのではないかなと、思っています。

父母氏名 (T. A.)

感動しました。

私の思っていたよりも、とても大人で、生命の大切さ、人の心をおもいやる気持ち、考えなど、素敵な心を持っているのに嬉しく思い、又、おどろきでもありました。

6年生で、このような有意義な授業を受けられた事、又参観出来た事、本当に良かったと思います。

※私の心の中を開いて見て頂きたいくらい感動しましたが、文章に表す事が苦手の為、うまく表現出来ません。残念です。申し訳ありません。

父母氏名 (O.)

五体満足で、何の不自由もなく、生活しているわが子は、四肢不自由なため口で絵を描いている富弘さんを知って、さぞ驚いた事でしょう。苦しいが努力次第で何でもできるという事が分かったと思います。又、生命の尊さも……。母親の子供を思う気持ち(すばらしいですね)と、富弘さんの強く生きていこうとする姿。とても感動してしまいました。家に帰っても、夕食時に、この話題で持ち切りでした。本当にすばらしい授業ありがとうございました。

父母氏名 (M. Y.)

親子で話し合う機会が少なくなっている時に、昨日の授業参観は、たいへん勉強になりました。わが子も、親に口ごたえをしたり、反抗期になったりする時がありますが、星野さんの気持ちと同じように心の中では、親に対する申しわけないという気持ちがあることがわかりました。これからも親子で仲良く何事も話し合ったり、相談し合って過ごしていきたいと思っております。

父母氏名 (S. S.)

とても感動しました。

子供達にも、これから中学、高校となっていく色々な事にぶつかっていきますが、今日の感激を忘れないでほしいです。

父母氏名 (T. Y.)

当日は上学年の授業参観ということで、放課後であいていた下学年の先生方にも見て頂いた関係で、ご意見を寄せて頂いたので紹介しておきたいと思う。

○母親の無償の愛、と書くとすばらしいが、母親が子どもをはじめて抱いた時、子どものけがの時、お母さん方の感想ではなく、アンケートを読んで、常々、自分は親不幸者だと思っているが、母も気持ちがわかる気がした。今日の授業を見せていただいて、子どもといっしょになっ

て、感動してしまいました。うまく文章にできないが、思わず涙ぐむような感動……心の動き……心が洗われるようなかんじがした。

○山田君が泣いているのを見てきて、もらいなきしてしまいました。山田君がますます好きになった。

命を粗末にしない、という事の意味の広さ深さを私も考えさせられた。自分を大切に、他も大切にする。大切な子どもをあずかっているんだなあということをしみじみ感じ、自分の職についてとても責任を感じた。

氏名 (I. S.)

生命の大切さを本当に感じた授業でした。

子どもも深いところまで感じるができるのだと思いました。

教師としても、自分の子どもの母親としても、生命の大切さ、子供の存在の大切さを折にふれ話し、子供に伝わるようにしていきたいと思います。

授業を見せていただいて、ありがとうございました。

氏名 (T. Y.)

「絶望の果てに」の資料の活用はよかった。子供が富弘さんの投げやりな言葉の中、心の中をしっかりと読みとれていたというのは、すばらしい。

感動しすぎ涙、涙になってしまったが、この場面は冷静に命の大切さを、じっくり考える（泣かせないという所があってもよい。私、ハンカチをもっていかないため）

母の生の声、いかに子供に訴える力があるか、特に教室という所では、今日、また新たに感じました。

よい授業はいつまでも心に残り（私も中学生のとき、道徳の授業で1つあります）苦しい状況に置かれたとき、ふと思い出し、生きる力となって生きてくると思います。道徳の授業の話し方等、大変勉強になりました。ありがとうございました。

氏名 (I.)

「生命」に対して、これ程までまっ向から考えさせられる授業に、未だかつて出会ったことがなかった。感動させられた、というのが実感です。

生命の尊さ、言葉の上では、簡単ですが、いざ、心に訴えかけるとなると、今日の様な授業（授業という形容がふさわしくないが）の設定が大切だと思う。（特に、親と子の同室という点）

子どもの様子より、自分自身の「生命」に対する考え方をふり返るキッカケになったような気がします。

氏名 (H.)

2 学校に対してのご希望・ご感想・その他について

今回の学年部会はテーマ等、実のあるもので、深く考え心に残る時であり、出席者も多く有意義でした。私が今まで出席させていただいた会の内でも数少ない、充実したものです。特に先生方の教育面におけるポリシーが胸打つものがあり、人間的個性を私の感性まで理解出来、明るい気持ちを持って、素晴らしく思いました。もう、残す月日も短く親・子共、この小学校を卒業させていただくのが、非常に残念です。現在の先生方の情熱を持ち続けて、より良い毛野南小学校の未来の為に御尽力下さいますようお願い致します。(血の通った教育に拍手)

授業参観に道徳は、ある意味では難しいのではと思いますが、先生も親子もいっしょに感じ、考える授業、素晴らしいと思います。

子供たちに学ぶところ、またまた多いにあります。色々な試みありがとうございます。

道徳の授業参観ということで、大へん良かったと思います。親子で考えさせられる点がたくさんありました。これからも、授業参観にとり入れて欲しいと思いました。

授業参観に対しての校長先生、教頭先生の父兄に対する思いやりの心がひしひしと感じ、うれしく思います。特に人数がいっぱいで教室に入れないでいる父兄に対して中に入れる様、配慮して頂き有難うございました。

これからも、家庭、学校、地域で一体となり、子供達の教育に努力していきたいと思います。

IX 考 察

(1) 我が子に対する意見調査のお願いでは、36名中23名(64%)の回収率にとどまったが、授業後の感想については出席者の93%、28名もの方々から参観後の感想が寄せられた。

そのほとんどが、

・親子で心に残る授業になり、今まで必要感に迫られてもタブーと考えていた問題に対し、これからは折りにふれて茶の間でも気軽に話が出せるように思え、本当にありがたかった。

・もうすぐ中学生という時期に、命の尊さを具体的に学習して頂き、本当にありがたい。これから先、困難に遭遇したとき、きっと今日の学習を思い出して、頑張ってくれると信じている。

・涙を流す子供の多いことに感動した。私もその一人であるが、「現代っ子」と、とかく非難の対象になりやすい子供があればほどまでに感動することに、深い感銘を受けた授業だった。

というような、有り難い内容ばかりであった。

これらの感想を考えると、親が子供に話さなくてはと思いながらも思着せがましく聞こえる事には、やはり抵抗を感じているのが事実であろう。それらを考えると三者一体の授業の持つ意味は、はかり知れない大きな家庭啓蒙になるであろう。

- (2) 授業の中で36名中29名(81%)の児童が、感動に耐え切れず涙を流したと言っている。参観者の父母30名中、半数以上の方々が目を真っ赤にしていた。

子が親を思う涙、そして親が子を思う涙を共通の話題で流した。このことは何にも勝る、親子の情愛の成せる技であろう。

- (3) 授業準備に時間がかかるが、親の意識・子供の意識調査をしたことが、より大きな効果を上げた。
- (4) 授業に父母の参加を取り入れたのは、一応成功であった。しかし、価値によっては1時間の学習過程への具体的位置付けをどこにするかが難しい。
- (5) 星野さんの生き方が余りにも感動的であるため、たくさんの児童がすすり泣き、声を上げて泣いていた。それらを見ながら授業を進める辛さ、残酷さは筆舌に尽くしがたいものがあった。

親・児童のみならず、教師も声を詰まらせる場面が多々あった。

- (6) 道徳の授業設計をする上で、資料を選ぶ困難さは誰もが感じていることである。しかし、本当に身近な生活の中に、素晴らしい資料のあることを恥ずかしながら再確認できた。
- (7) 「教え子の自殺」から切実感に迫られ、北中学校の研究資料を参考に、自分なりの工夫を凝らしたつもりである。

辛い授業ではあったが、「やってよかった。」と心底から思える、心に残る授業の一つになることに違いはない。

一読し、ご意見、ご叱責がいただければ、幸いです。

評

新学習指導要領における道徳教育改善のための重要な視点として、児童生徒の「内面に根ざした道徳性の育成」という点がとりあげられました。これは、道徳の指導においては、最終的には道徳的実践のできる児童生徒の育成が目標であり、その実践を可能にするためには、その行為が自己の内面の力としての道徳的実践力によって動機付けられるようにしなければならないという点を強調したものです。

本実践記録は、「生命尊重」を主題とした1単位時間の道徳の時間の指導事例ですが、児童の内面に根ざした指導原理に基づいた実践例として、多くの示唆を提供してくれています。

ここに紹介されている授業は、父母を対象とした公開授業という形で実施されました。副題に「父母・教師・児童が一体となって進めた生命尊重の授業」とありますが、この授業では、児童の心情に極めて強いインパクトを与えているのみでなく、参観した父母に与えた影響も大変なもので、授業に臨んでいた三者が、文字どおり、一体となって大いなる感動に浸ったようすが推測されます。こうした成功をもたらしたのは、資料選定が適切であったこと、豊富な補助資料が準備されたこと、児童及び父母を対象とした主題にかかわる意識調査を実施しその集計結果を授業で活用したこと、などによるものと思われます。特に、父母の果たした役割は大きいと言えます。道徳教育においては、学校と家庭・地域とが一人の子どもの人間形成について、それぞれの教育機能を発揮しあって協力していくことの必要性が叫ばれていますが、本事例には、こうした「学家連携」の視点からの成果も見られます。

今後とも、こうした研究実践を継続されることをご期待申しあげるとともに、他校におきましても、本実践記録を自校の道徳教育の一層の充実のために活用されることを期待します。